

らじみサラダボール子育て情報



「思考を育てる」
令和元年11月6日号
板橋富士見幼稚園



主体的学びから考える力が育つ

子どもは、生まれながらにして親や周囲の人に依存し、寄りかかって、安心感や安定感を保とうとします。それは、未成熟で生まれて、生きていくために必要な本能的な人間力といえます。

しかし、満一歳を迎える頃から、自己の欲求が高まり、自ら思考が強く働くようになってきます。このとき、大半の親や大人達は、せがむ笑顔や泣き声を耳にすると、子どもの欲求に素直に応じることに何の迷いもなく答えることは親としてごく普通のことです。



2歳を迎えた頃から、自我が強くなり、次第に親への依存性と自立性が混在し始めてきます。親は、今まで素直に言うこと聞いてくれたのにと、嘆くこともしばしばです。自立心が宿り始めた証拠なのですが、親は今まで通り親の都合に合わせてようと、我が子との葛藤がはじまります。放っておくと我がままになってしまうのではと、誰もが心配します。

自我が芽生えるということは、知恵が回りはじめたということです。知恵は、社会に参加する人間力の入り口です。時には自己の欲求や価値観など、我を張り、押し通そうとします。そのときに、思考が思い巡り、あれやこれやと知恵が回り出します。つまり、思考力がアップするということです。

主体的な遊びを繰り返し習熟していくと、そのたびに、子どもは経験や体験を通して思い巡らせ思考を重ねていきます。この思考を重ねながら、新たな知識を見つけ出すことが、実は人の有能感を育てます。つまり、遊びは思考力をより高めるために最も重要な学習なのです。小さいうちに、この思考を思い巡らす体験をたくさん積み上げた子どもは、将来の学習行動において解決する力に役立つと言われていています。そんな遊びの時間を、大人がそっと見守ってあげる時間も大切ですね。